

令和6年11月2日

### 文化祭開会挨拶

皆さん、おはようございます。令和6年度の文化祭が、体育祭に引き続いて「千紫万紅 色祭描いて 繋いだ絆」のテーマの下、スタートします。

今日は、図書委員会の発表やその他の研究発表展示、声楽、吹奏楽部や有志の、ステージ発表、各教室でのクラス、文化部、生産部、各委員会、有志等の素敵な催し物など、いろいろな分野の文化を楽しむことができると聞いています。各担当者の皆さん、それぞれの役割をしっかりと果たしてみんなで頑張ってください。また、今日は、保護者の方々、保護者以外にも地域の方々など多くの方に来校していただき、文化祭を楽しんでもらうことになっています。お客様として、商品等を買っていただくことであろうかと、思います。親切で丁寧な態度、言葉遣い、マナーで接客してください。そうした体験は普段では学ぶことのできない、素晴らしい勉強になると思います。

本校の校訓には、「忠誠を以って人に接す」、誠実で思いやりある態度で人に接するとありますが、この心を忘れずこの校訓を実行し対応すれば大丈夫だと思います。

さて、この校訓は、吉田高校の創立を支えた3人の一人、村井保固の考えを表したものだと言われています。彼は、慶應義塾大学の創立者福沢諭吉の依頼を受け、今から140年ほど前、ニューヨークで、日本製のお皿やカップを売るようになったそうです。しかし、アジア人に対する偏見などで商売は上手くいかない中、彼は、そうした偏見を振り払い、信用と信頼を得るために、店のショーウインドーをいつもピカピカに磨き、飾りつけもより良いものに工夫して、お客さまが心地よく買い物できるように努力したそうです。また、当時はニューヨークにほとんどいなかった日本人に対する偏見からか、本来ならクレームできないような、買ってもらったお皿にあったちょっとした傷に対するお客様の対応にも、わざわざ来てくれたとお客さまに、丁寧に頭を下げ、申し訳ありませんでしたと、そのお客様の前でその皿をたたき割り、もっとクオリティーの高いお皿と交換したそうです。そうした対応などが評判となり、ニューヨークだけでなくアメリカ全土で売り上げを伸ばすことになったそうです。今日、お客様に接するときに村井保固のことを思い出して、彼以上の素晴らしい接客をお願いします。長くなりますが、結びに、村井保固のエピソードをもう一つ紹介して終わります。彼は年老いたころ、故郷の吉田の人々にこう語ったことがあるそうです。「人間は苦勞をする必要があり、人が経験した苦勞はいつまでも、その人を守り、その人の人格に光を添え、その人の成功を保証する」ものだと話したそうです。

皆さんも今日までの準備、今日の活動、いろいろな苦勞があったことだと思いますが、文化祭での活動、苦勞が、皆さんの人生のプラスになるはずです。文化祭ばかりではありませんが、皆さんの日頃から活動を期待し、そして今日の活動を期待します。私も楽しみたいと思います。皆さんも今日一日楽しんで下さい。今日の文化祭の成功を祈ります。